

対談

男女平等推進

次のステップへ

台東区男女平等推進行動計画「はばたきプラン21」策定にあたって、区民とともに尽力してこられた平沢茂さんと荒井ひとみさんに、台東区の今回の条例への期待を語っていただきました。

男女平等推進の条例がスタート

平沢 台東区は全体的に古い地域があつて、男が上にあつて、女性がやや下にいるという、そういう雰囲気町の町がありましたよ。ところが、台東区もどんどん新しい地域も出てきました。「はばたきプラン21」推進会議に長年関わり、行動計画の策定にも関わってきました。教育畑の人間として、この条例に幼い頃から教育の重要性と、学校教育や社会教育のなかで、人権など基本的なものをきちんと教育していくべきと謳われているのが嬉しく思ったことです。また推進会議の中で気づいたことは、「女性の問題」はまさに「男性の問題」であるということです。

推進会議

荒井ひとみさんに聞く



副会長（平成24年度～）
NPO法人男女共同参画
こしがやとまろう副代表理事

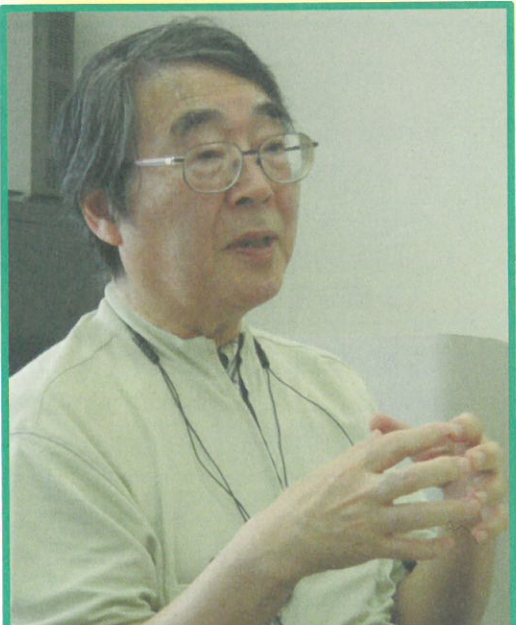
特に4年前の東日本大震災の話でもしばしば出ましたけれど、災害の時、さらにその後の復興の時に女性が持っている力を、男性が気づいていない。また、女性が災害時に抱える問題にも男性が気づいていない。ですから、この条例を通じて男性へ一層積極的に働きかけができる

今回の条例も基本理念を立てて、男性も女性も性別に関わりなく、自立した個人として人権を尊重している

議員提案から生まれた条例

平沢 台東区はプラザができて、プラザと区民が協力しながら行動計画策定の推進会議を進めてきましたよ。そこでの議論が少しずつ浸透して、そこに議員の条例提案がうまく乗ったということで、無理なくできたということがあるのではないかと思います。

「はばたきプラン21」 平沢 茂さん



会長（平成14年度～）
文教大学
名誉教授

荒井 私もそれは同感です。推進会議に区民の方がずっと関わって、計画を少しずつ進めてきたのがよかったのではないかと思いますし、これからも続いていくでしょう。

平沢 プラザもしっかり条例の中に位置づけられているのも大きいですね。また、この時期にできたメリットとしては、以前は、セクシュアル・マイノリティについて話題になつていなかったけれど、今は視野に入っていますからね。

連携・協力して条例を活かす

平沢 条例は、まずは知ってもらおう。その次は、ここに書かれている精神を日常生活の中で区民がどう活かすかということ。具体的には、家庭・学校・社会の中で、始終これを通じて問題提起していくことが重要だと思えますね。

今まであまり知らないできたので

すが、企業の中にまだ問題はあつて思ふんですよ。推進会議の中でも話にはなっていました。働き方の問題も含めて女性が企業の中で必ずしも存分に活かされていないのではないかと。あるいは、男性と同じような待遇が得られていないのではなか、など問題はいろいろありますよ。行政はなかなか企業の中には入れないのだけれども、この条例をこれにして企業に働きかけができるか、考えていたのだと思いますね。

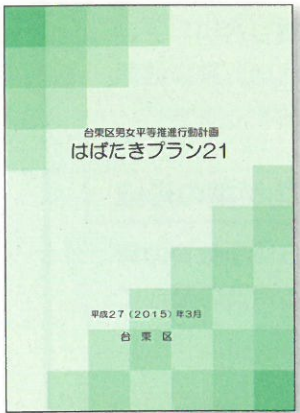
荒井 大変な部分もありますが、区役所内でも、条例の中で、区・区民・事業者としての責務をそれぞれ定めていることを理解していただかないと進んでいきません。そして区民の方や事業者にも、プラザで発信し

●今回制定された条例の経緯
女性議員6人の勉強会から始まり、全議員提案という形で議会に条例案を提出。昨年12月の議会で全会一致で可決・制定されました。

「はばたきプラン21」推進会議

学識経験者や公募区民等で構成され、台東区男女平等推進行動計画の進捗状況や関連施策などについて、ご意見をいただく会議です。

台東区男女平等推進行動計画
「はばたきプラン21」



詳しくは下記URLをご参照ください。



<https://www.city.taito.lg.jp/index/kurashi/jinken/danjobyodo/haba-taki.html>